

◎ 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	センター	2次
学校行事	物理・化学2										
トライ対策スケジュール	物理のエッセンス										
	名門の森物理										
	阪大の物理20年										
	化学I、IIの新演習										
	大阪大学の理科										
	センター必須マニュアル センター過去問、実践問題										
ポイント	数学2										
	1対1対応の演習										
	微積分 基礎の極意										
	解法の突破口										
	新数学演習、大阪大学への数学										
	阪大の理系数学20年										
ポイント	英語										
	DUO3、阪大英語の20年										
	入試英文法問題特講										
	英文読解入門基本はこれだ										
	ポレポレ、英作文が面白い										
	大阪大学の英語、大学入試難関への英作文 センター必勝マニュアル、センター過去問・										

◎Data Mining 【2次試験】

英語	傾向：大問4題で構成、〔1〕和訳〔2〕長文読解〔3〕自由英作〔4〕英訳（英作）傾向：和訳・長文読解は理系教科の難しさに比べかなり簡単。センター試験の英文内容と大差はない。和訳は日ごろから添削を受けておくと心強い。長文読解でタイムロス減らし、和訳・英訳問題にある程度時間をかけるように意識する必要がある。
理系数学	傾向：大問5問で構成。時間は2時間半。理系数学が阪大合格の上で最重要科目となっている。対策：早い時期に標準問題を習得し、幅広い学習が必要である。頻出の微積分問題に対応するため、最難関の問題集等を解いて、多くの問題を演習することや、早い段階から過去問（阪大理系数学20年と阪大模試の過去問）を演習し、多くの問題を習得しておくべきである。
物理	傾向：他の理科選択科目と合わせて2時間半の解答時間。物理は大問3題で、毎年力学、熱力学、電磁気学が出题されている。波動は出题頻度が低い。融合問題も出题されている。問題レベルは高めである。対策：基本事項をきちんと本質的に理解する必要がある。また応用問題を解き、解法を覚える前に基礎的部分の十分かつ本質的理解が必要である。また、数学と同様過去問を演習しておくべきである。」
化学	傾向：毎年倫理問題、有機問題、あるいはこれらを絡めた問題が多く出題されている。無機単独の出題はなく、倫理問題にからめて出題されている。理論は、平衡、酸化還元、中和、気体などが出題されており、有機は構造決定問題が頻出で、アミノ酸や糖なども出題されている。対策：夏までに無機化学、有機化学の各論的知識の習得と倫理問題の基本・標準問題をこなしておく必要がある。有機の構造問題は必ず得点したいので多く解いておくべきである。数学と同様、過去問を演習しておくべきである。

◎ こういう生徒にお勧め！

- ・国立理系の膨大な勉強量に不安がある
- ・問題集に悩んでいる
- ・センター勉強と2次の勉強の比率に悩んでいる

◎ 対象エリア

◎ 対策の特徴

- ・バランスよく勉強ができる
- ・合格ラインの確認
- ・阪大生、もしくは阪大出身の家庭教師により受験の不安を払拭できる